

若い介護者の「孤独」を考えて

介護施設職員

(兵庫県 58)

「ある若者介護の結末」(11月22、23日神戸版など)を読んで衝撃を受けました。21歳の孫娘が、同居をして介護を続けてきた認知症の90歳の祖母に手をかけてしまった事件の話でした。悲しすぎます。

世間には介護の必要に迫られ、学業や仕事、友人たちとの付き合いも犠牲にしてひとりで背負い込んでいた若者たちがたくさんいます。私は、30年ほど介護の仕事をしてきましたが、「孤独」に耐えている若い介護者、とくに18歳未満の「ヤングケアラー」が多いと感じています。

記事を読むと、祖母のケアマネジ

ヤーなど気にかけてくれる人がいたものの、職場には介護の事情がよく伝わらないこともあったようです。

「祖母を見るのは私しかいない」と、過酷な介護を一人で背負い、誤った決着をつけてしまった。彼女の「孤独」にちゃんと寄り添ってくれるひとが少なかつたから起きた事件でもあるのではしようか。

孤独は個人の感情ですが、社会に支え合いの仕組みがないと耐えられません。これから的人生を耐えていかねばならない若い介護者たちのことを、社会問題としてとらえ、支援していくかなればと思いました。

祖母の介護と殺人 孫娘に何が

小学校教員

(兵庫県 56)

去年10月、21歳の幼稚園教諭が介護していた祖母を殺害した事件があり、今年9月に執行猶予付きの有罪判決があった。事件に至る経緯を「ある若者介護の結末」(11月22、23日神戸版など)で読んだ。両親が2歳の時に離婚、父方の祖父母に引き取られ、認知症の祖母の介護をひとりで担つた事情が書かれていて、胸に迫った。

私も、くも膜下出血と脳梗塞の後遺症で寝たきりとなつた母を、ひとりで約5年介護した。兄が1人いたが遠方で生活しており、母は息子に

介護はさせられないと言つて頼めなかつた。親戚から「近くに住んでるし女の子だから」とも言われた。モヤモヤを抱えた私だったが、ケアマネジャーさんや実家のご近所の方々、夫や子どもたちに支えられた。ケアマネさんが、働きながら介護をするにはどうすれば最善かをアドバイスしてくださつたのは心強かつた。周囲のフォローがなければ、私も追いつめられていただろう。

彼女は夢だった幼稚園教諭に就いていたが、自らの手で人生をくるわせてしまつた。殺人は許されないが、罪を償い、これから的人生を支えてくれる人が現れることを祈る。